

# 事業報告

〔 自平成 30 年 4 月 1 日 〕  
〔 至平成 31 年 3 月 31 日 〕

## I. 会社の現況に関する事項

### 1. 営業の概況

#### (1) 乗客数の動向

平成 30 年度の国内経済は、企業収益が過去最高を記録する中で設備投資が増加するとともに、雇用・所得環境の改善により個人消費の持ち直しが続くなど、緩やかな回復が続きました。このような状況の中、当社の乗客数は、年間 19,057,176 人（前年度比 5.0%の増加）、1 日平均 52,355 人の過去最高の実績となりました。

増加の主な要因は、以下の通りです。

- 入城観光客数は 999 万 9,000 人で、前年度比 41 万 9,100 人（4. 4%）の増加となり、6 年連続で過去最高を更新した。
- 那覇空港の旅客利用状況でみると、国内線は前年度比 0. 6%の増にとどまったが、国際線は 7. 6%の増となった。
- 平成 30 年の沖縄県内へのクルーズ船寄港は前年比 2. 5%増の 528 回と過去最多を記録し、那覇港では 8. 5%増となった。
- 観光以外でも通勤通学の固定客増、沿線イベントでの利用増加があった。

#### (2) 営業活動の状況

当期において取り組んだ主な新規営業活動等は以下の通りです。

- 車内用 FreeWi-Fi 設置  
利用者へのサービス向上のため、全編成へ設置を行った。
- 開業 15 周年イベント  
新聞広告の掲載、ゆいレール祭りの開催及び 15 周年記念バッチを製作し、職員や関係者に配付した。
- 東京ディズニーリゾート 35 周年広告やアンパンマン号等のラッピング車両を運行した。
- コインロッカー増設  
要望の多い（大）ロッカーを増設した。（赤嶺駅、壺川駅）

○安室奈美恵さんファイナル応援企画

引退する安室さんのファイナルと新たな始まりを応援するため、提供曲を車内メロディー及びコンコース内にて放送した。

○冬用制服リニューアル

浦添延長開業に向けて、冬用制服を一新し、ゆいレールのイメージアップと職員の意識改革に努めた。

## 2. 経営の状況

- (1) 当期は、好調な乗客数の伸びを背景に、営業収益・営業利益・経常利益は過去最高を更新し、当期損益は3期連続単年度黒字を計上しました。旅客運輸収入は前期比5.9%増の38億90百万円、運輸雑収は、広告収入の増、コインロッカー、ATM機の増設に伴い、前期比6.6%増の1億95百万円となり、旅客運輸収入と運輸雑収を合わせた営業収益は前期比6.0%増の40億85百万円となりました。

営業費は修繕費が前期比8百万円の減となりましたが、燃料価格の高騰による動力費の増、延長設備供用開始に伴う減価償却費増により、前期比1億19百万円増の33億17百万円となりました。新造車両(2編成分)等の供用開始に伴う特別利益(補助金)26億80百万円、特別損失(固定資産圧縮損)26億76百万円を計上いたしました。

以上の結果、営業利益は7億67百万円、支払利息等を差引いた経常利益は6億61百万円、当期純利益は5億61百万円となっております。

なお、経常利益に減価償却費を戻し入れた償却前経常利益は、16億97百万円となっており、前期比1億94百万円の増加となっております。

- (2) 継続企業の前提について

当社は、当事業年度において債務超過であり継続企業の前提に重要な疑義が存在していると認識しております。但し、4期連続して経常損益は黒字を計上しており、損益状況は改善に向かっております。また、減価償却前利益も増加し資金状況も安定しております。

以上のことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性はないと認識しております。

### 3. 行動指針に基づく取組と実績 ー経営理念定着化のためにー

#### 安全で快適なモノレール

- 安全方針及び安全重点施策を定め、運輸の安全確保に努めています。
- 安全管理規程に基づく安全対策委員会を年6回、定期的に開催し、事故防止に努めています。
- 7月6日  
那覇市消防局中央消防署との合同訓練として、おもろまち駅にて外国人観光客が心肺停止状態に陥った際の駅務員及び救急隊による旅客救助訓練を実施しました。
- 8月16日  
那覇警察署との合同訓練として、安里駅にて、不審者が無差別テロを計画実行し、多数の負傷者が発生した想定の対処訓練を実施しました。
- 11月5日  
地震・津波に対する対処訓練として、緊急地震速報受信時の運転取扱、避難誘導等の対処訓練を実施しました。
- 12月14日  
地震発生に伴い、沖縄電力からの電力供給が停止した際の運転取扱、避難誘導訓練等の対処訓練を実施しました。

#### 人にやさしく、環境にもやさしいモノレール

- 4月2日より平日ダイヤを257本（旧247本）、4月6日より金曜ダイヤを273本（旧267本）に改正し、お客様の利便性向上を図りました。
- 8月15日、ゆいレール全車両にBe.Okinawa Free Wi-Fiの設置を完了し、お客様のサービス向上を図りました。
- 3月28日、おもろまち駅各トイレの全面リニューアルを完了し、お客様のサービス向上を図りました。今後も各駅トイレの全面リニューアルを計画しております。
- 駅務員のサービス介助士取得については、現在52名が取得済みで、全員の取得を目指します。
- 昇降設備等の一元管理  
国・沖縄県・那覇市の各道路管理者の所管する自由通路昇降設備等を当社で一元管理しており、昇降設備等の不具合発生時には、各道路管理者と緊密に連携し、より迅速な復旧に取り組んでいます。

#### 社会と共生するモノレール

- 県内の高等学校等に在学する低所得世帯の高校生等の通学費を軽減するため、「沖縄県高校生等通学費負担軽減措置に関する協定」を沖縄子どもの未

来県民会議（会長・県知事）と締結し、対象者への運賃支援を継続しております。

○「十五の春応援カード」で、離島からの高校進学者への運賃支援を継続しております。

○65歳以上の運転免許証自主返納者への割引支援を継続しております。

○那覇市とタイアップした高齢者割引制度「がんじゅう1日乗車券」の運賃支援を継続しております。

#### 4. 延長事業の進捗状況

浦添延長事業について、平成30年度はインフラ外部の駅舎建築・設備が完成し、また、電車線及び受変電等に係る県の使用前検査を経て、システム総合試験を実施しました。現在、駅務機器、可動安全柵等の整備を行っており、また、運行管理システムや信号保安施設の社内試験を経て運転士の習熟運転を実施しています。

道路管理者が担当するインフラ部は自由通路や駅前広場の整備を鋭意進めております。

#### 5. 対処すべき課題

##### （1）浦添延長事業

浦添延長事業については、2019年夏以降とアナウンスさせて頂いたところですが、この度、国や県における運輸開始承認検査を経た後、10月に開業を予定しているところであります。

7月のインフラ及びインフラ外の工事しゅん工後、8月に運輸開始承認検査が行われる予定であり、確実に運輸開始認可が得られるよう、体制を構築し全社を挙げて取り組んでまいります。安全性と信頼性が確保されたモノレールとして、開業を心待ちにしている多くの市民、県民の期待に応えていきたいと考えております。

##### （2）混雑解消

実績のとおり、乗客数は過去最高を記録しておりますが、それに伴って、モノレール車内と一部駅の券売機前の混雑が常態化しております。

モノレール車内の混雑解消については、通勤通学時間帯の朝ラッシュ時において4分間隔で運行しておりますが、その運行時間帯を拡大し改善いたします。

券売機前混雑の要因は、主に県外旅行者によるものであることから、その対策

として、令和 2 年春のサービス開始を予定している全国共通 IC カードの導入によって、混雑解消に努めます。

### (3) 輸送力増強

近年の乗客数の増加は著しく、国、県、那覇市、浦添市、沖縄公庫、沖縄都市モノレール(株)で構成される中長期輸送力増強に関する検討会議において、今後の需要予測と必要となる車両編成等を検討してまいりました。

結果として、2030 年の乗客数予測に対し現在の 2 両編成では輸送力が不足するため、3 両編成化が望ましいとの意見が取りまとめられました。

一方、導入にあたっては、3 両編成車両の購入や用地買収を含む運営基地の拡張整備など膨大な資金調達が必要であり、これらの課題解決に向けた取り組みとして、国、県、那覇市、浦添市へ 3 両編成化に伴う財政支援等の要請を行いました。

令和 2 年には那覇空港滑走路増設の供用も予定されており、今後も着実に利用客の増加が見込まれます。安全で快適な輸送環境とサービスを提供するため、関係各位のご指導とご支援を賜り、実現に向けて取り組んでまいります。

今後とも、株主各位の変わりないご支援、ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 貸借対照表

(平成31年 3月31日 現在)

(単位:千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>4,513,245</b>	<b>流動負債</b>	<b>6,420,531</b>
現金・預金	3,772,248	短期借入金	1,313,970
営業未収金	20,876	未払金	541,646
未収金	109,847	未払費用	87,981
貯蔵品	161,006	未払法人税等	102,913
前払費用	8,790	預り金	34,062
立替金	440,475	前受運賃	30,203
		前受金	4,307,754
		リース債務	2,001
<b>固定資産</b>	<b>21,391,236</b>	<b>固定負債</b>	<b>22,200,970</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>21,300,490</b>	長期借入金	21,980,484
土地	5,107,385	退職給付引当金	220,486
建物	4,133,958		
構築物	18,391,125		
車両	7,814,713		
機械装置	384,358		
工具・器具・備品	581,575		
リース資産	8,400		
建設仮勘定	5,913,552		
減価償却累計額	△ 21,034,579		
<b>無形固定資産</b>	<b>23,390</b>		
電話加入権	591		
商標権	288		
電気供給施設利用権	26		
ソフトウェア	22,484		
<b>投資その他の資産</b>	<b>67,355</b>		
投資有価証券	6,000		
長期前払費用	61,071		
その他の投資等	284		
		<b>負債合計</b>	<b>28,621,501</b>
		<b>(純資産の部)</b>	
		<b>株主資本</b>	<b>△ 2,717,019</b>
		資本金	8,793,650
		資本剰余金	1,216,300
		資本準備金	1,216,300
		利益剰余金	△ 12,726,969
		その他利益剰余金	△ 12,726,969
		繰越利益剰余金	△ 12,726,969
		<b>純資産合計</b>	<b>△ 2,717,019</b>
<b>資産合計</b>	<b>25,904,482</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>25,904,482</b>

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 損益計算書

第37期(自:平成30年4月1日 至:平成31年3月31日)

(単位:千円)

科 目	金	額
<b>営業収益</b>		
旅客運輸収入	3,890,310	
運輸雑収	195,508	4,085,819
<b>営業費</b>		
運送費	1,866,100	
案内宣伝費	72,901	
一般管理費	135,255	
諸税	208,251	
減価償却費	1,035,314	3,317,823
<b>営業利益</b>		767,995
<b>営業外収益</b>		
受取利息	978	
雑収入	50,135	51,114
<b>営業外費用</b>		
支払利息	144,606	
雑支出	12,764	157,370
<b>経常利益</b>		661,738
<b>特別利益</b>		
補助金	2,680,508	2,680,508
<b>特別損失</b>		
固定資産圧縮損	2,662,508	
除却費	14,143	2,676,651
<b>税引前当期純利益</b>		665,595
法人税、住民税及び事業税		104,278
<b>当期純利益</b>		561,316

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

(自:平成30年4月1日 至:平成31年3月31日)

(単位:千円)

	株 主 資 本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
		資本準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	
平成30年4月1日残高	8,269,700	692,400	△ 13,288,285	△ 4,326,185
当期変動額				
新株の発行	523,950	523,900		1,047,850
当期純利益			561,316	561,316
当期変動額合計	523,950	523,900	561,316	1,609,166
平成31年3月31日残高	8,793,650	1,216,300	△ 12,726,969	△ 2,717,019

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。